第二十二回中央教化研究会議

一、開催趣旨

(1) 中央教化研究会議は、広く法華経教化について論議し、具体的方策を樹立することを目的に開催されます。

(2) 中央教化研究会議は、各管区の教区教研運営委員を中心として、管区内での教化活動の現状を話し合い、総弘通運動推進に係わる諸問題を検討致します。

(3) 各部会での討議を通して、教学の現代化、教育問題、青少年教化等に取り組み、問題の把握、解決、教材資料の作成をめざします。

(4) 論談を通して、日蓮一門、地涌の菩薩としての意識を昂めます。

二、統一テーマ

社会にいかすお題目総弘通運動

――みなおそう運動の実態――

三、会議形式

(1) 全体会議

記念講演 「日本人の宗教意識」

NHK放送文化調査研究所世論調査部　横山　滋　氏

(2) 分科会及びテーマ

○第一分科会〈教学部会〉「教化学の確立にむけて」

日蓮聖人の教えにもとづいた教化指導が大切です。身近かな信仰問題について、その裏付けとしての教化学の確立を目指して話し合い、考える部会です。

○第二分科会〈寺檀部会〉「信行会活動の活性化をはばむものは何か」
——檀家制度と講組織等を考える——
信行会活動の活性化をはばんでいる要因の一つに、教師・檀徒共に既存の檀家制度に依存しきっている体質が考えられます。一般社会からも葬式仏教などと言われ、檀家制度に安住する姿勢に批判もあります。講組織等も含め、一般市民にも開かれた新しい寺檀関係を考える部会です。

○第三分科会〈法器養成部会〉「社会にいきる教師養成」
後継者の不足や、その質の低下が大きな問題になっています。本化の教師の自覚を持つ人材を養成することが急務です。信行道場をはじめとする教育機関の点検と、その改善を話しあい考える部会です。

○第四分科会〈世代別教化部会〉「青少年教化の組織化とその展開」
子ども会など少年教化は比較的成功しやすい。成長していく若者へのフォロー、子どもを通した家庭への教化、さらに父母・壮年層の参加など、世代間にわたる組織化と展開を考える部会です。

○第五分科会〈教化伝道ネットワーク部会〉「ネットワークづくりの一つの試み」
各種ニューメディアが開発される中、これを活用して寺院を活性化させることが考えられます。特に中央教化センター・地域教化センターのシステム化をどのように図り、現場の教化に役立たせるかを考える部会です。

○第六分科会〈社会問題部会〉「医療と日蓮聖人の教え」

社会高齢化問題、医療問題、人権擁護問題、過疎過密問題等次々に生じる社会問題に、一宗教者は如何に対処するかを探求する部会です。

○第七分科会〈立正平和部会〉「立正安国の精神とお題目総弘通運動」

「環境汚染と原発問題」

日蓮聖人の理想は、立正安国、仏国土顕現にあります。その理想に邁進し、また、現在問題になっている原発や環境汚染など、地球規模の様々な問題に如何に対処するかを考える部会です。

四、開催方式

(1) 部会制、設問方式を採用致します。

(2) 告示と同時に別紙にて各部会毎に二〜四項目の問題を設定します。

(3) 出席者は一部会を選び、その設問（必ず一つ以上）について意見を事前に、教務部経由現宗研に提出してもらいます。

(4) 提出された意見は、中央教研運営委員会にてとりまとめ、開催当日はこれをもとに各部会毎に更に討議を加えてもらい、全体会にてそのまとめを報告してもらいます。

(5) 中央教化研究会議においてまとめられたものは、教区の教研会議の資料や、今後の教化のハンドブックとして役立てられるよう、小冊子として刊行いたします。

五、会　　場　池上本門寺・朗峰会館

六、宿　　舎　朗峰会館

七、参 加 者　宗務所長より推挙委嘱された運営委員（管区二名）。但し、希望者の参加は若干可能。

八、持 参 品　○数珠・折五条・布教服・法華経開結・筆記用具・洗面用具

○「お題目総弘通運動」Ⅰ　(1)　（宗務院刊）

○各寺発行の教化資料

九、日　程

◎第一日目　九月五日（火）

受　付　九時～九時三十分（朗峰会館一階）

開　会　式　九時三十分～十時三十分（本殿）

全　体　会　議　十時三十分～十二時三十分（朗峰会館四階）――記念講演――

昼　食　十二時三十分～十三時（指定会場）

分　科　会　十三時～十八時（指定会場）

懇　親　会　十八時～二十時（朗峰会館四階）

◎第二日目　九月六日（水）

起床・朝勤　四時三十分

朝　食　七時三十分（朗峰会館四階）

分　科　会　八時三十分～十時（指定会場）

全　体　会　議　十時～十二時三十分（朗峰会館四階）

教区別懇談会　十二時三十分～十三時三十分（指定会場・昼食共）

誓願唱題行　十三時三十分～十四時（本殿）

閉　会　式　十四時～十四時三十分（本殿）

十、分科会設問

○第一分科会〈教学部会〉

1、「私たちは死後どうなるのでしょうか。丹波哲郎の大霊界が評判になっておりますが、仏教の霊界も同じなのでしょうか」とたずねられたとき、あなたはどう答えますか。

〔ポイント〕イ．大霊界（近代における霊学）の示す霊界。
ロ．日本神道における霊界。
ハ．浄土門における霊界ならびに浄土。
ニ．本宗における霊界ならびに浄土。

2、「本願寺の説教で、日蓮宗の加持祈禱は釈尊の教えからいうと邪道である。と聞きましたがどうなのでしょうか」とたずねられたとき、あなたはどう答えますか。

〔ポイント〕イ．真宗の祈禱。
ロ．法華系新宗教の祈禱観。
ハ．本宗のさわり、たたり、についての対応。
ニ．宗祖の祈禱観。

3、「大喪の礼」に際してあなたはどう対応いたしましたか。

〔ポイント〕イ．本宗の追悼文について。
ロ．日蓮聖人の国家観と戒壇論について。

○第二分科会〈寺檀部会〉

1、あなたは寺の信行会の活性化をはかるために、その目的をどう説明していますか。

2、地域の人々を集めて○○会を行ったところ、檀家から「月回向に来てくれない、なぜ檀家回りをおろそかにしてまで他宗の人を相手にするのか」と苦情を言われました。あなたの答えは……。

3、檀信徒を新興宗教へ入らせないようにするために、あなたはどうしていますか。又すでに

入信してしまった檀信徒にはどのような対策を考えていますか。

○第三分科会〈法器養成部会〉

1、(イ) 現在の信行道場で何もかも教えるのは無理だというが（指導のあり方・カリキュラムについて）、あなたのご意見をお聞かせ下さい。

(ロ) 子弟を信行道場に入れるに当たって、あなたは何を教えてほしいと望まれますか。

2、寺の息子で僧侶になりたくないという人がいます。在家から発心して僧侶になる人もいます。僧侶になるということはどういうことなのか、あなたのお考えをお聞かせ下さい。

3、社会にいきる教師は、どのような教育の中から生まれて来るとお考えですか。

○第四分科会〈世代別教化部会〉

1、A君は積極的に寺の子供会にきていますが、彼の父母は放任タイプで、一切寺とかかわりあいたくないと考えています。その父母たちに、どう布教の輪を広げるか、そのポイントをお聞かせ下さい。

2、子供会に熱心に通って来ていたB君が中学生になった時、母親から「今あなたにとって一番大切なのは受験勉強なのだから、寺より受験よ」と言われ、それから寺に来なくなってしまいました。中・高校生・社会人へと進む子供達に、もしあなたならどう対応しますか。

3、私の寺では、幼年層や高年齢層の教化のための組織づくりは進んでいますが、その中間、特に壮年層に対する教化のための組織づくりが弱いので、何かアドバイス願えないでしょうか。

○第五分科会〈教化伝道ネットワーク部会〉

1、都市型寺院と農村型寺院がそれぞれ布教を実践するうえで、ネットワークづくりなどニューメディアを、具体的にどう活用すればよいと思いますか。

2、中央教化センターと地域教化センターのシステム化を図るため、

(イ) 現在の二十一教化センターの全体的組織統一を、どうすればよいと思いますか。

(ロ) 未組織地域における教化センター設立を促進するには、どうすればよいと思いますか。

○第六分科会〈社会問題部会〉

1、病名告知をされた患者さんに、どの様にお話をしてあげたら良いでしょうか。病気の違いによって話す内容を何か工夫されていますか。

2、高齢化社会に伴って医療制度が変わりつつあり、長期療養する病人は不安感をもちはじめています。現在大病院は自らの課題としてこれらの病人をいかにケアするかの点から、宗教者とのかかわりが模索されつつあります。こうした中で、私達僧侶は患者や病院にいかにかかわりあって救済活動をしていくべきでしょうか。

3、末期癌患者から法話を求められました。本人は告知されておらず、生死の問題をどのように説いたらよいでしょうか。

4、痴呆症の老人を抱えて困っています。どのように対応していったらよいでしょうか。

○第七分科会〈立正平和部会〉

1、立正平和運動は、お題目総弘通運動の中でいかされなければならないものであり、戦後の宗門運動のあゆみを考え、広く世界へその理念と行動を示していく必要があります。そこで、地域社会の中で立正安国の精神をいかそうと思いますが、檀信徒とともに地域に働きかけて

いくためには、どんなことを心掛けていけばよいのでしょうか。

2、原発の危険と不安については今、社会的に関心が深まりつつありますが、これに対して我々はどうかかわっていったらよいのでしょうか。電力会社の管理職である篤信のAさんは、「原発は絶対に安全である」というのですが、どのように説明したらよいのでしょうか。

全体会議・分科会役配分担

○全体会議座長　中村潤一師

副座長　豊田正通師

○分科会（敬称略）

部会	座長	助言者	発題者	運営・記録
1	小倉光雄	岩堀豊種・井藤太然 岩永泰賢	三原正資	植坂行雄・高橋謙祐
2	小川英爾	問 木村勝行・菊池泰瑞	井村大祐	片野博義・西片元證
3	新井貫厚	顧 新間智照・石井錬昭 都龍張	豊田正通	原顕彰・植田観樹
4	蓮見高純	研 鎌田行学・井本学雄 太田鳳苑	江口隆祥	大島啓禎・田島辨正
5	進藤義遠	宗 伊藤如顕・貝山宣昭 小川順道	龍澤泰孝 伊藤立教	神谷行宏・的場慶雅 吉本光良
6	渡部公容	現 河崎俊栄・山口裕光	蟹江一肇	鈴木浄元・望月兼雄
7	古河良晧	中濃教篤・久住謙是	近江幸正 梅森寛誠	石田良正・白部哲応